

## 馬琴隨筆引書索引

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学教養論集刊行会 公開日: 2013-05-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 神田, 正行 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/14870">http://hdl.handle.net/10291/14870</a>

## 馬琴隨筆引書索引

神田 正行

### はじめに

本稿は、曲亭馬琴がものした隨筆類のうち、公刊された四点、すなわち『蓑笠雨談』『燕石雜志』『烹雜の記』『玄同放言』の諸書に見える典籍類の索引である。本文は、今日もとも流布する新版日本隨筆大成（昭和48年）、吉川弘文館）を用いた。ただし周知のように、日本隨筆大成は必ずしも信賴の置けるテキストではない。その詳細は個別に後述するが、底本選定や校訂に嚴密さを欠くのは、同大成の通弊である。近時の研究論文においても、馬琴隨筆を大成本から無批判に引用するものを目にするが、このような風潮は改められねばならない。

もっとも、早稲田大学図書館の古典籍綜合データベース (<http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/>) や Google ブックス (<http://books.google.co.jp/>) などにおいて、原本の画像を容易に確認できる現在、馬琴隨筆の翻刻を新たに公刊しても、それを広汎に流布させることは困難であろう。このような状況を勘案して、本索引もやむなく大成本に依拠することとした。各隨筆の概要は、以下の通りである。

◆『蓑笠雨談』(二巻三冊。享和四年正月、耕書堂等刊。大成本、第一期10『著作堂一夕話』)

享和二年の上方旅行記『躑躅漫録』から数条を選び、潤色を施して刊行したもの。その概要は、後印本巻一の見返し(図1右)に、以下のごとく記されている。

この書は、京洛・浪華、及諸州雅俗の奇談、山川の名義、神社の祭祀、古人の伝述、墓誌、古書画等を登録し、且巻中とところどころ出像し、視者をして、直に往事を監み、其地に遊ぶごとくならしむ。全部居多巻あり。今わかちて初編三冊とす。もつとも好事家のよみすべき珍書なり。

通蒼坊書肆 耕書堂主人欽白 印(鶯) 印(十)

『蓑笠雨談』初印本の板元は、同じ馬琴の『俳諧歳時記』(横本二冊。享和三年刊)刊行にも関与した、名古屋永楽屋・大坂河内屋・江戸葛屋の三書肆である(図1左参照)。馬琴は上方遊歴の途次、永楽屋東四郎と河内屋太助の両書肆を訪問しており、『蓑笠雨談』の刊行は、すでに旅行の前後から企画されていたのであろう。なお、刊記右側の奥目録には、第二編の「近刻」が予告されているが、これは実現しなかった。

本書の諸本研究として、服部仁氏『『蓑笠雨談』(『曲亭漫筆』、『著作堂一夕話』)諸版出版の顛末とその周辺』(読本研究第十輯下帙。平成8年11月)が備わり、また同氏編『馬琴研究資料集成』第五巻(平成19年、クレス出版)には、『雨談』の初印本が影印されている。

隨筆大成は旧版(昭和2年)と同じく、弘化五年刊行の『著作堂一夕話』を収めるが、服部氏も指摘するように、『一夕話』は『曲亭漫筆』に次ぐ二度目の改題本であり、初刊の『蓑笠雨談』以来、数次にわたる改刻を経たものである。大成本の新版刊行に際して、初印の『蓑笠雨談』が採用されず、旧版同様に改題後修本の『一夕話』が収められたのは理解しがたい。

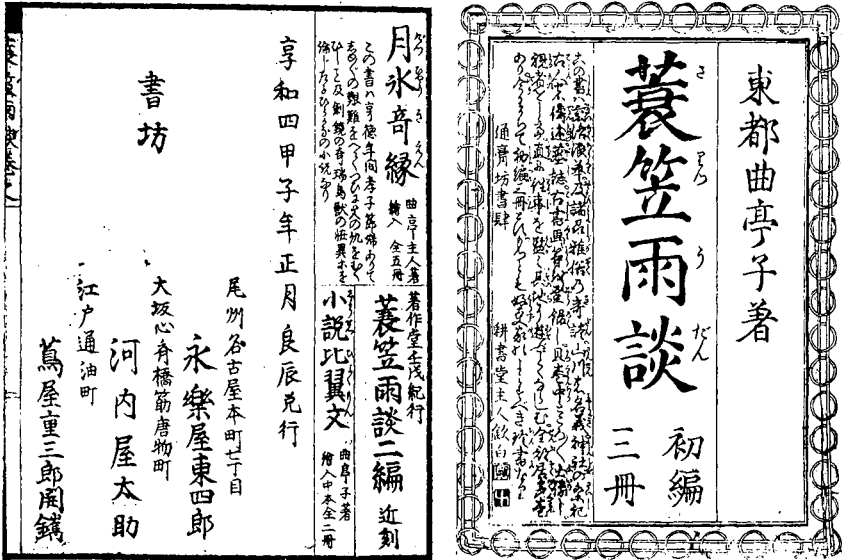


図1 東北大学図書館狩野文庫蔵本『蓑笠雨談』第一冊見返しと刊記

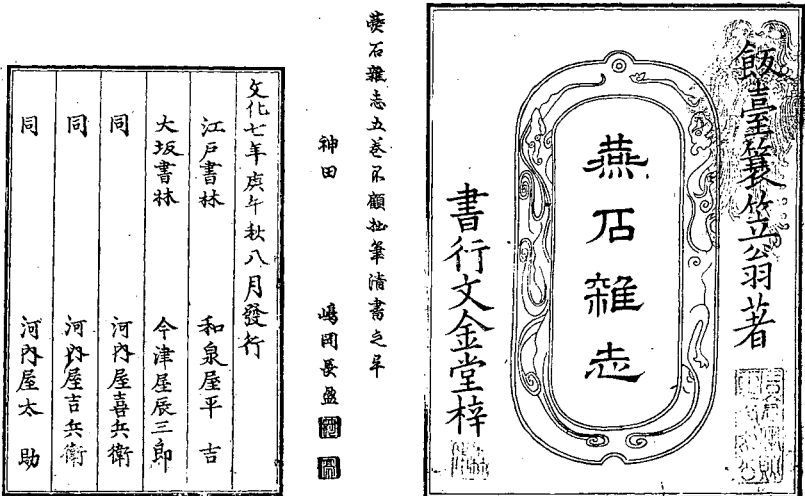


図2 慶應義塾図書館蔵本『燕石雜誌』第一冊見返しと刊記

ちなみに、本書の母体となった『羈旅漫録』も、同じ新版大成の第一期1に収まるが、同書は明治十八年刊行の渥美正幹校訂本に基づくものであり、『蓑笠雨談』との重複記事を省略しているので、両書の比較検討には用をなさない。

◆『燕石雜志』（五卷六冊。文化七年八月、文金堂等刊。大成本、第二期19）

馬琴初の本格的な考証隨筆で、記述は天象から昔話、江戸の地名にまで及ぶ。刊年を文化八年に改刻した後修本も数多く現存するが、大成本の末尾には初印時の刊記（図2左と同一）が掲出されている。しかし、大成本の本文は後修本に基づくものであり、この点にも新版刊行に際する校訂態度の杜撰さがうかがえる。

『燕石雜志』後修本における改刻箇所を、以下に列挙してみる。ただし、いずれも本索引の作成過程で見出したもので、もっぱら書名に関わる改刻である。大成本はいずれも後修本の形を踏襲しており、本索引もこの形で採録した。なお、「引用書籍目録」から省かれた蘭林『支干考』は、卷五下の本文中（14丁表。大成本五三七頁）に登場する。

卷五上17丁表2行目 宋人ソウヒトの牛塞翁ウシウが馬の事↓淮南子の塞翁が馬の事（四九九頁12行目）

卷五下29丁裏6行目 ※末尾に割注なし ↓（割注）後漢書列伝卷之六十一可考。（五五八頁2行目）

卷五下41丁表12行目 蘭林支干考 ↓草木子（五七三頁13行目） ※「引用書籍目録」のうち

初印本に右のような不備が存するのは、板元が遠隔地大坂の河内屋太助であったためでもあろう。文政元年十二月十八日付の鈴木牧之宛馬琴書翰（書翰集成①19）に、以下のような記述が見える。

『燕石雜志』ハ、板元大坂ゆゑ、校合只一番直しのミにて、一向行届不申、脱多く有之、又筆耕の書損も多し。これに懲り候故、今般『放言』の校合ハ、頗細密に仕候。

新版大成は国会図書館蔵本を参照し、その欄外に施された書き入れをも併録している。この処置について、大成本の

解題は以下のように説明する。

今国会図書館に頭註書入本がありこれには、馬琴の後考及び清水赤城、北静廬、直種（加藤？）等の説が記入されている。巻末に此れ等の書入のまとめられた時期を馬琴は記している。「文化八年三月十五日追書畢」此れ等の書入は一筆であるが、馬琴の自筆ではない。この書入は「頭註」として収録した。

しかし、実際に大成本を国会図書館蔵本と対照してみると、翻刻に誤りが散見されるばかりでなく、大成本に漏れた「頭註」さえある。これならばむしろ、板本の形を正しく再現することに専心して、必ずしも来歴の明らかでない書き入れなど挿入しない方がよかつたのではあるまいか。ともあれ、本索引には「頭註」に含まれる書名も、本文中のものと区分して採録した。

◆『烹雜の記』（二卷三冊。文化八年十二月、柏栄堂等刊。大成本、第一期21）

『燕石雜志』の翌年に刊行されたもので、同書の補遺編としての色彩が強い。特に巻下「先板の訛舛」（三十七丁裏以下）では、北静廬等から寄せられた難詰に言及しつつ、「雜志」の誤りを訂正し、さらに新知見を補つてもいる。この一段の内容は、前項で言及した国会図書館本『燕石雜志』の書き入れと重なる部分が多い。

巻頭の「崖略」において、馬琴は以下のように述べている。

曩に著したる『燕石雜志』は、おもひの外に悞おほかり。よりて友だちの誰かれ、或はとほき唄の文人に、打驚されたる条もあり。さらでも備書に悞れ、或は漏せし事を、后にみづから考得たるもあれば、今この編の後に附。

（巻上、六丁表）

上冊の見返し（図3右）や内題・尾題には「前集」の二字が付され、巻末でも刊記と並べて「後集」の「近日嗣出」

を予告しているが(図3左)、後集は未刊に終わった。

岩波書店の『国書総目録』や、同書の事業を継承した国文学研究資料館(<http://www.nijl.ac.jp/>)の「日本古典籍総合目録」は、本書を「三巻三冊」とし、大成本も本文を三巻にに区分しているが、これは後修本の姿である。

初印本の巻上は四十六丁、巻下は四十九丁(他に奥目録・刊記一丁)であるが、三冊本は巻上・中を各三十一丁、巻下を三十四丁に再編する。その際、帳尻を合わせるために巻中の第二丁を新刻したほか、本来は白紙であった巻中第十五丁(初印本の巻上第四十六丁)の左面に「近世画者が摸する所の惠美寿の像これなり。猶くさくさの考へあり、左に録して覽にそなふ」と注記した一図を挿入している(大成本四六五頁)。これに続く初印本巻下の内題は刪去してあるものの、直前の巻上尾題は残存しており、書物としての体裁を著しく損なう改修であった。

これらの処置は、中金堂釜屋又兵衛によるものと思われるが、同書肆の単独版(宇部市立図書館蔵本など)は、いまだ目録や丁数部分が改刻されていない。これが河内屋茂

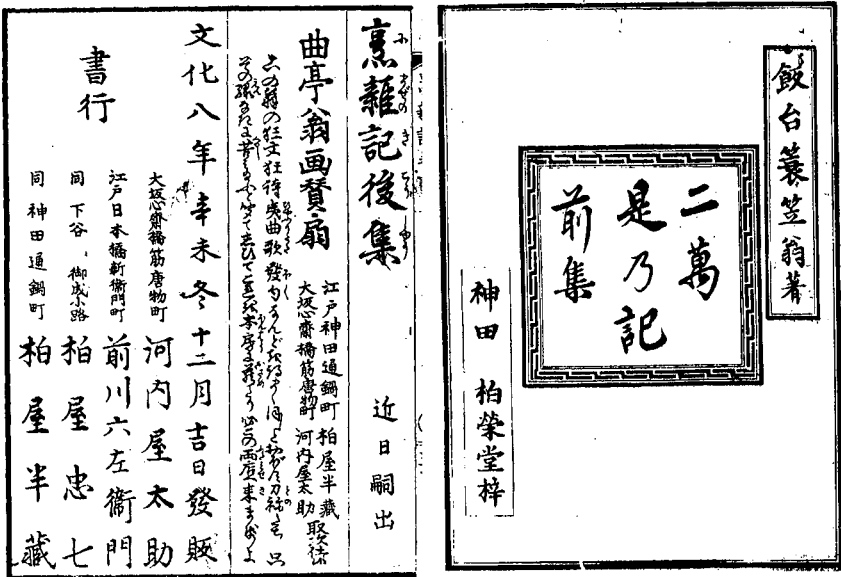


図3 拙架蔵本『烹雜の記』前集 第一冊見返し(薄藍色摺り)と刊記

兵衛以下十一書肆連名の刊記を持つもの（今治市河野美術館蔵本など）になると、目録が三巻編成に改刻され、巻中の丁数も彫り改められて通番となる。しかし、巻下は第一丁（初印本の巻下第十六丁）の丁数に「下ノ初丁」と彫り添えたばかりで、以下の丁付けは初印時のままである。

馬琴の巻頭言（巻上、一丁表）や山東京山の付言（巻上、三丁裏）には、書肆柏栄堂（柏屋半蔵）の名前が見えるのに、大成本の末尾に掲げられた刊記（伊丹屋善兵衛・釜屋又兵衛等大坂・江戸七書肆）には、柏屋の名前を見出しえない。この点からも、大成本の底本が初印本でないことを容易に見て取れる。

馬琴の『近世物之本江戸作者部類』（天保五年成立）にも、『京雑の記』が二巻であることや、その板元が柏屋半蔵であることが明記されている。随筆大成の解説はこの記事を引用する一方、三冊本における右のごとき「丁数の乱れ」にも言及しているが、それでもなお大成は、不審の残る三冊本を底本に選んだのである。ただし、二冊本は国会図書館をはじめとする諸所に蔵されており、新版大成がどこまで諸本調査を真摯に行ったのか、疑問を抱かずにはおれない。なお、柏栄堂刊本には同一刊記の四冊本も伝存するが、第一・二冊と第三・四冊の分断位置が機械的で必然性に乏しく、やはり当初は二冊本として刊行されたものと思われる。

ちなみに、巻下四十三丁裏において、初印本では「岩瀬伯慶子云々」とある箇所が、後印本では「岩瀬田臧子云々」に改められている（大成本五一頁も「田臧子」）。「伯慶」は京伝の初めの字、「田臧」は彼の初名であり、同人からの希望を容れて改刻されたものであろうか。

◆『玄同放言』（二集三卷六冊。文政元・三年、仙鶴堂刊。大成本、第二期5）

上集（第一集）三冊は文政元年十二月、第二集三冊は文政三年十二月刊。前掲の三書にくらべて、より精細な考証が



展開されるものの、その編述は上集巻頭に予告された分量(全六巻)の半分で杜絶した。

文化二年に刊行された馬琴読本『稚枝鳩』(豊国画。仙鶴堂刊)の巻末には、「遠近草紙」なる「著作堂主人隨筆」の近刊が予告されている。この題号を持つ隨筆は刊行されなかったが、馬琴は早くから鶴屋との間で、隨筆の執筆を約していたのであろう。

上集三冊の欄筆直後、馬琴は越後の鈴木牧之に宛てた書翰の中で、以下のように記している。

拙著隨筆、先年出版いたし候『燕石雜誌』『烹雜記』、被成御覽候哉。(中略) 一体右之両書ハ、甚さし急ギ、考等行とゞき不申、その上、女子どもにも見せ候を第一二いたし候故、一向作者の面目を失ひ申候書ニ御座候。依之、此度の『玄同放言』ハ、格別ほね折候て、『燕石』にませ』のあやまちを補ひ候こゝろばへにて、思ひたち申候也。

(文政元年二月三十日付書翰。書翰集成①14)

本書の内容については、文政二年に鶴屋が刊行した馬琴合巻『春の海月玉取』や『義経千本桜』(いずれも豊国画)の巻末にも、以下のような広告文が掲げられている。

玄同放言(著作堂隨筆) 大本全六巻(初版三巻人の部まで出来)

この書は天地・人物・人事・植物・器財・動物・雑篇とその部門を建る。こは謝肇淪が『五雜俎』のごとく、部毎に故事を引異同を挙、訛謬を并じ、みづからの考をあらはすに、古人未発の説多し。間亦珍説奇談を録して、人の視聴をあらたにす。しかも和漢の書数百部を引据したれば、彼臆断杜撰の冗(冗)の誤か) 籍前日時好に媚たる草紙物語とおなじからず。作者近年多病によつて、杖を莎庭の外に曳かず、且客を辞すること久し。こゝをもて今この書をあらはして、窓友の晤譚にかえたり。一たび巻を開くものは、その席に臨み、その言を聴にまされり。

幼学有益の書といふべし。仙鶴堂識

この広告は半丁全面を占める長文であり、板元鶴屋の名義ではあるが、実際には馬琴が執筆したものであろう。  
 第二集の刊行以後も、仙鶴堂は『玄同放言』を続刊する意欲を持ち続けた模様であり、文政五年刊行の馬琴合巻『月霄吉阿玉之池』（豊国画）巻末には、以下のごとき広告文を掲出している。

〔簑笠翁隨筆〕玄同放言〔初編・二編共二六冊出版 第三編三冊近刻〕

右第三編三冊は、器用の部より動物の部の半に至るべし。この編すべて古器旧物、異鳥奇獸の図等皆ことごとく写真にして、詳に作者の考を尽せり。雅俗となく見るにめがれせず、読むに倦ことなし。初編二編にいやまして、尤興あるべきものになん。依て先近刻の由を披露す。

その後も鶴屋は、長編合巻『傾城水滸伝』（豊国・国安等画。文政八年〜天保六年刊）において、毎編巻末で『玄同放言』の続刊を予告する。しかし、『傾城水滸伝』が惹起した長編合巻の盛行に伴って、馬琴の合巻執筆量が大幅に増加し、それが『八大伝』以下の読本述作とも相俟って、『玄同放言』の嗣作を困難にした。天保四年末の当主死亡以後、板元鶴屋の経営が悪化し、後には手代嘉兵衛が馬琴の機嫌を損ねた結果、『傾城水滸伝』の続刊も天保改革に先だって頓挫している。

とはいえ、自らの学識を広く世に示す『玄同放言』が未完に終わったことは、著者馬琴にとっても長らく心残りであり、読本『新局玉石童子訓』第四版（版）は「編」の意。弘化三年、文溪堂等刊）の第五十回には、以下のように

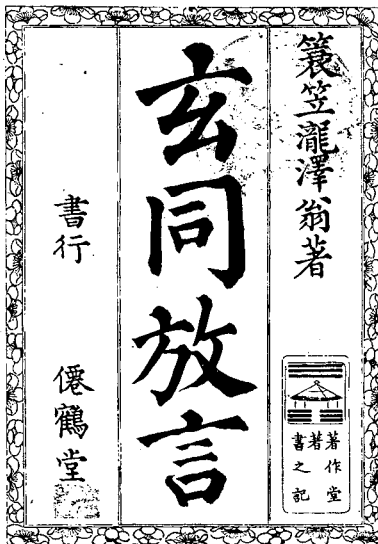


図 4a 拙蔵蔵本『玄同放言』上集第一冊見返し

な記述が見える。

明人の詩に、渾不似と没奈何を対ししあり。没奈何は飲酒磁器にて、受たる酒を半分飲ざれば、忽地に漏る者也。(作者曰、己嘗「渾不似・没奈何考」一編あり。『玄同放言』再著のをり、載ばやと思ひしに、累年多事にうち紛れ、老耄今に至りしかば、竟に本意を遂がたかり。只腹稿のみにして、この身と共に、亡なんことの惜げれば、浮たる冊子の編中ながら、仮托してもて略記するのみ。) (巻二十、十二丁表)

『玄同放言』上集巻頭の目録には、巻四器用部の中に「第四十九 渾不似図説」が予告されており、また読本『開卷驚奇侠客伝』第一集(天保三年、群玉堂等刊)巻四にも、「予「没奈何考」一編あり」(五丁裏頭注)という記述が存する。

『玄同放言』の現存諸本中では文溪堂(丁子屋平兵衛)版が多数を占めるため、本書初印の板元を文溪堂と誤るものが少なくない。かくいう稿者も、かつて新編日本古典文学全集『近世説美少年録』2(平成12年、小学館)所収の

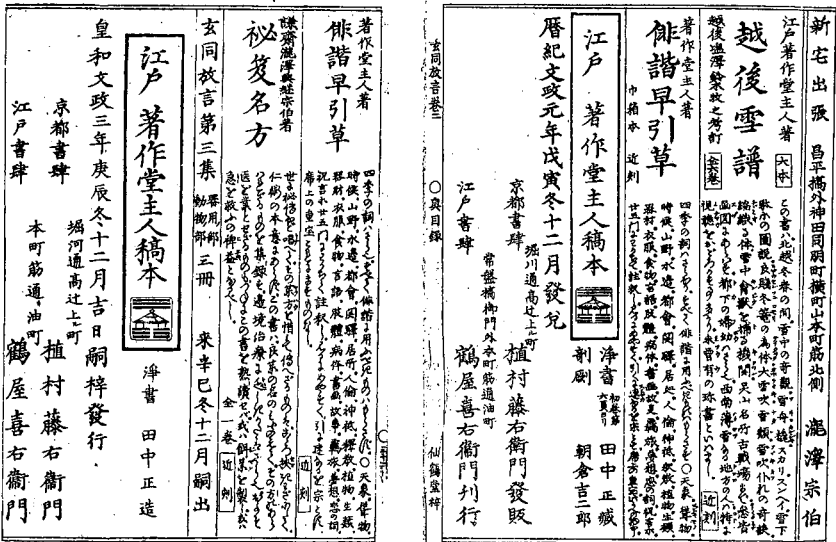


図4b 初印本『玄同放言』各集刊記  
(上集(右)刈谷市立図書館, 第二集(左)名古屋博物館蔵本)

「馬琴主要著作解題」などにおいて、同様の誤ちを犯した。しかし、各丁の板心にも「仙鶴堂梓」とあるように、本書の板元は鶴屋喜右衛門である。『玄同放言』に閲して、右のような誤りが広く行われているのは、今日もつとも流布する隨筆大成本が、やはり文溪堂後修本の見返しと刊記とを掲げている点にも一因があるだろう。

本書初印本の見返しと刊記を、図4に掲出した。初印時の見返しは、上集・第二集とも同様と思しく、梅花模様様の梓の中に著者名・書名等を刻し、右上に龍の丸印、左下に「小林氏印」の方印を捺す。架蔵本上集(第二冊を欠く不全本)第一冊の見返しは藍刷りで、第一丁との間に黄色の遊紙一葉が挿入されている。

一方、大成本は板本の巻一之下(上集第二冊)の二丁裏・三丁表を白紙(梓のみ印刷)にして、別摺りで貼り込まれた「百姓田中孫十郎が田園たはたの巻書けんしよ」の模刻を逸する。この巻書については、本文中にも「原本のまゝ臨写して、考証の一端に備ふ」(二丁裏。大成本四二頁)と記されるが、文溪堂の後印本にもこれを持たないものがあり、隨筆大成はそのような伝本に依拠したのであろう。

## 凡例

○前掲四点の隨筆に見える書名を、明らかに他の典籍から「孫引き」された書物も含めて抽出し、五十音順に配列した。板本に付された振り仮名が、今日通行の読みと大きく異なる場合、検索の便宜を考慮して、通行のものを優先した。○書名は、以下の原則にもとづいて統一を行なった。

一、基本的に馬琴の常用する書名を用いる。(例) 『日本書紀』↓『日本紀』

二、書名に冠された王朝名や著者名は省く。(例) 『王充論衡』↓『論衡』

三、関連書を一箇所に集めたり、区分を明確にしたりするため、右の原則を外れて書名を操作した場合がある。

(例) 『公羊伝』↓『春秋公羊伝』／『水滸伝解』↓『忠義水滸伝解』

○「編・篇」「抄・鈔」「陰・蔭」「回・廻」等の相違は、煩雑になるのでいずれかに統一した。

○馬琴が用いた別称のうち、主だったものを書名の後に( )で囲んで示した。ただし、前項に示したような用字の相違や、仮名書きと漢字表記との相違などは、別称として採録していない。

○「ある物」「一書」など、その内実が不明確なものの若干も立項した。また、馬琴自身の著作や『藩翰譜』『佐渡事略』など、本文中に書名が明記されていないものでも、本稿作成の過程で判明したものは、本来の書名で立項した。

○『蓑笠雨談』は「蓑」、『燕石雜志』は「燕」、『京雜の記』は「京」、『玄同放言』は「玄」の略称を用いた。頁数は、新版日本随筆大成に依拠した。

○( )内の「※」以下には、著者名や概要などの参考事項を示した。また、「↓」以下は参照すべき項目である。

○『燕石雜志』の国会図書館蔵本に施された頭書に見える書名は、頁数の後に「\*」印を付して他と区別した。

○参考として、東洋文庫蔵『曲亭蔵書目録』に見えるものについては、末尾に「蔵」として、日本古典文学影印叢刊『近世書目集』(平成元年、日本古典文学会)における掲載頁を併記した。その際、欄上に後補された書籍には、頁数の後に「△」を付けて他と区別した。

### 《付記》

本稿のもとになるデータは、拙著『馬琴と書物——伝奇世界の底流——』(平成23年、八木書店)の編集と並行して作成したものである。浅学ゆえの誤謬や遺漏、分類の不徹底も少なくないと思われるので、大方のご批評をもとに随時補訂していきたい。

《あ》

- 『愛敬昔男』（愛敬昔好色） 蓑 365・366・燕 392・藏 226
- 『嬉霏抄』 燕 498・541・558・559・570・玄 94
- 『赤染右衛門集』（赤染右衛門家の集） 燕 279・432・571
- 『秋草』（※四季草）のうち 燕 544・\*・京 515・玄 135・145
- 『秋の夜長物語』 京 484
- 『朱紫』 玄 13・54
- 『朝貞通』 玄 91
- 『足利治乱記』 燕 362・363・571・藏 226△
- 『東鑑』 蓑 347・燕 312・315・361・379・474・495・508・571・京 439・483・484・玄 11・24・43・70・73・114・125・158・165・193・218・219・221・227・230・266・271・276・278
- 『東めぐり』 燕 378・572
- 『阿昆達磨俱舍論』 玄 242
- 『阿昆達磨明証論』 玄 242
- 『海土』 燕 516
- 『阿弥陀経』（仏説——） 玄 14・27・29
- 『阿弥陀経疏』 玄 29
- 或記（※津島牛頭天王） 蓑 319
- ある書（※大ころしの梨） 燕 307
- ある書（一書 ※うとふ鳥） 京 438
- ある書（一書 ※蓑翁は李姓） 燕 498

- ある書（一書 ※新田氏贈官） 玄 55
- 或説（※其角発句の解釈） 燕 328
- ある人の記（或記 ※とこひれ魚の説） 京 446
- ある文（一書 ※大和芋洗芝） 玄 180
- ある物（※朝臣の出処） 玄 137
- ある物（※小野お通松代行） 燕 306
- ある物（※紀貫之改名） 燕 368
- ある物（※雀の語源説） 燕 299
- ある物（※年玉考証） 燕 423
- 安斎翁の随筆（※『安斎随筆』カ） 京 466・471
- 『晏氏春秋』 京 504

《い》

- 『異苑』 燕 441・447（\*1）
- 『夷堅統志』 燕 461
- 『委巷叢談』 燕 430
- 『十六夜日記』 玄 161
- 『伊勢参宮名所図会』 燕 358
- 『伊勢物語』 燕 325・326・570・藏 189（落穂抄）・189△（古意）
- 一奇書（※おさん半七の書置） 蓑 361
- 『一宮記』 蓑 306
- 『一休咄』（一休話説） 燕 483・572
- 『逸志』 燕 291
- 一書（※河口静斎名字） 玄 68

- 一書（※藤原為尹系図） 玄 83
- 一本（※佐渡地名） 京 449
- 『壁生（いつまで）草』 玄 250
- 『犬筑波集』 燕 307・323・572
- 『異聞録』（※『事文類聚』所引） 玄 243
- 『異本女郎花物語』 燕 571
- 『今様鈔』 玄 15・161
- 『色縮緬百人後家』（西沢一風があらはしたるさうし） 蓑 368・藏 190
- 『韻譜』 燕 406

《う》

- 『宇比麻奈備』 玄 15・151・157
- 『浮絵東都中洲夕涼之景』（※模刻） 燕 394
- 『兔大手柄』 燕 439
- 『兔の仇撃』 燕 475
- 兎の物語の絵巻物 京 512
- （※以上三書同一カ）
- 『宇治拾遺物語』（宇治拾遺） 燕 348・417・452・458・475・484・570・京 474・藏 217
- 『大秦草紙』（※絵巻） 燕 475
- 『うつほ物語』（宇津保物語／宇津保） 玄 12・67・69・258・259・262
- 『浦島（うらしまが）子伝』 燕 470・555・555
- \*・京 515・玄 154 ↓『続——』
- 『浦島太郎』（一の草子） 燕 439・469・475
- （※絵巻）

『浦島塚の縁起』(縁起) ※金川西蓮寺)

燕 469・473

『雲根志』 京 458・460

『雲葉集』 玄 12・81

《元》

『采花物語』 燕 356・570・京 484・蔵 237

『永享記』 玄 60

『衛公兵法』 燕 278

『咏物詩選』 玄 14・89・蔵 238 △

『易』(易経/周易) 燕 277・341・450・572・

玄 13・18・19・22・30・213・231・247・

蔵 222 (五経標注)

『易緯』 玄 13・19

『益都耆旧伝』 燕 459

『江田系図』(江田系譜) 燕 545・玄 55 (\*

2)

『越後名寄』 燕 318・433・490・514・玄 38・262・

蔵 238 △

『悦目抄』 燕 350・570

『江戸絵図』寛永版(寛永中の地図) 燕 390・

玄 12・蔵 218・237 (江戸地図)

『江戸絵図』長享版(長享江戸絵図) 玄 12・

蔵 201・237 (江戸地図)

『江戸絵図』長祿版(長祿江戸絵図) 玄 12・

蔵 201・237 (江戸地図) 燕 425・501・521・

『江戸古鹿子』(古鹿子) 燕 425・501・521・

572・京 423

『江戸雀』 燕 390

『江戸砂子』 燕 379・389・蔵 237

『江戸総鹿子』 燕 378・390・392・521・572・京

424・蔵 237

『江戸道中記』 燕 572

『江戸咄』(都婦——) 燕 390・572・蔵 237

『江戸名所記』 燕 368・370・372・390・572・京

423・蔵 238 △

『淮南子』(淮南鴻烈解) 燕 277・306・404・

418・\*・497・499 (※後印本改刻)・531・

543・573・京 506・玄 13・27・蔵 204

『絵本三国妖婦伝』(この草紙 ※書名明記

せず) 燕 300

『宛委余編』(※王世貞。『弁州山人四部稿』

所収) 玄 16・145・186・189・191・201

『煙霞綺談』 玄 13・54・87

『煙花三絶』 京 495

『延喜式』 燕 279・351・391・406・570・玄 235

『円光大師行状記』(※絵巻) 燕 474

『弁州山人四部稿』(四部稿) 玄 16・145・

185

『燕石雜志』(雜志) 京 422・443・451・483・

505・516・517・玄 5・135・178

《お》

『王維文集』(文集) 玄 46

『桜陰談』 京 462・玄 15・212・265・蔵 204 △

『奥羽軍記』 燕 310・317・538・京 509

『桜雲記』 燕 362・363・365・571・京 509・玄 11・

54・55・蔵 203 △

『奥義抄』 燕 295・466

『奥州後三年記』(奥州後三年軍記) 玄 11・

118・127・蔵 203 △

『奥州土平飴壳』(土平飴の引札) 燕 384・

425

王世貞が説(※「書蘇子瞻諸葛亮論後」) 京 517

『心仁記』 燕 571・蔵 203 △

『大鏡』 燕 316・321・324・353・399・570・玄 11・

70・118・120・128 (三かゞみ)・蔵 204 △

『大鏡裏書』 燕 315

『大系図』 ↓「諸家大系図」

大森杖信隨筆 燕 499

『翁草』 玄 15・195

『落窪物語』(落窪) 玄 15・162・262・蔵 203

△

『落穂集』 燕 391・392・蔵 203 △

『鬼貫句選』(同句選) 蓑 355

『鬼貫独言』 蓑 355

『小野小町一期盛衰の事』(※絵巻) 燕 474

『女郎花』(※絵巻) 燕 475

『女郎花物語』(女郎花/異本——) 燕 325・

326・335・571・蔵 204 △

- 『温古録』 燕 452・572  
 『御曹司島めぐり』 燕 451  
 『御曹司島渡』 燕 572  
 (※以上二書同一カ)  
 『か』  
 『怪異弁断』 京 472  
 『槐宮記』 燕 473  
 『開元遺事』 燕 277・462・蔵 205△(開元天寶遺事)  
 『回國雜記』 燕 380・452・蔵 259△(※群書類従)  
 『譜史』(※沈叔) 燕 508\*・京 513  
 『懷秋集』 燕 535  
 『海鱒談』(海鱒録) 燕 388・蔵 207  
 『会真記』 燕 310・573  
 『海島風土記』 燕 514・572・蔵 189  
 国——  
 『甲斐国名勝志』 玄 12・42・蔵 205△  
 『開關略記』 玄 59  
 『蟹録』(晴川集) 燕 435・440・441・444・445・574  
 ↓『後蟹録』  
 『臥雲日件録』 玄 11・126  
 『花管三代記』 玄 43  
 『河海抄』 燕 297・玄 77  
 『下学集』 燕 301・571・玄 15・173・175・176・蔵 194△・207

- 『学語篇』 燕 420・572・京 510・蔵 205  
 郭璞贊 燕 301  
 『神楽』(—催馬楽歌) 燕 398・570・玄 11  
 『鶴林玉露』 玄 89  
 『かげろふの日記』 燕 321  
 『花鳥風月』(※絵巻) 燕 475  
 『仮名手本忠臣蔵』 京 461  
 『兼盛集』(兼盛家集) 燕 420・571・京 510  
 『画譜』 玄 88  
 『楽府』 玄 255  
 『鎌倉大草紙』 燕 364・365・380・571・京 509  
 『鎌倉管領九代記』(管領九代記) 燕 322・365\*・367・571・京 509・玄 58・蔵 207  
 『鎌倉志』 玄 12・74・176・蔵 205  
 『神代卷』↓『日本紀』  
 『賀茂社百首』 燕 462  
 『華陽国志』 燕 447  
 『棠大門屋敷』 蓑 353・蔵 206  
 『河社』(契沖——) 燕 399・420・447・571・京 510・玄 15・235・蔵 205  
 『巻懐食鏡』 京 458・460  
 『菅家御伝記』 玄 11・129・蔵 254(※群書類従)  
 『菅家万葉集』 燕 398  
 『韓子』 燕 464  
 『顔氏家訓』(家訓) 京 508・509  
 『韓詩外伝』 燕 564

- 『官者伝』 玄 124  
 『漢書』 燕 278・509・玄 13・121・145  
 『官職難義』 玄 135  
 『閑田次筆』 京 434・玄 13・32  
 『韓非子』 玄 15・211・239  
 『漢武内伝』 玄 16・181  
 『漢隸字源』 燕 540・573・蔵 205△  
 『き』  
 『奇異雜談集』 京 484・玄 15・262・263  
 『寄園寄所奇』(寄所奇) 燕 535  
 『きはひ桜』(競桜) 燕 424・428・430・572  
 『義経記』 燕 349・京 477・484・玄 11・45  
 『戲材録』 蓑 374  
 『魏志』 玄 44・127  
 『雉賦』(※傅玄) 燕 450  
 『癸辛雜識』(癸辛雜志) 玄 181・254・258  
 『義楚六帖』 玄 181  
 『北野大茶湯記』(※絵巻) 燕 475・蔵 260△(※群書類従)  
 『吉夢誦』 燕 483  
 『橘品論』 玄 13・92  
 『擬天問』 燕 465  
 『癸未紀行』 燕 521・572・蔵 215(羅山——)  
 『九経談』(※太田錦城) 京 463  
 『宜遊草』(若林が詩集) 玄 250  
 『九老詩』 玄 201



- 『狂雲集』 玄12・116
- 『曉山集』 燕527・蔵230
- 『郷談雜字』 燕420・573・蔵230
- 『京童』 燕501
- 『玉海』 燕310・317・538・544\*・570・京515
- 『玉笑零音』 燕340
- 『玉搔頭』(笠翁伝奇) 蓑375・蔵231
- 『玉篇』 燕403・404・415・玄38・132・蔵229
- (—大成)
- 『曲礼』 燕315・京490・玄228 ↓『礼記』
- 『漁父辞』 燕541・573
- 記録(※二代目夕霧自尽) 蓑370
- 『訓閱集』 燕303
- 『金匱要略』 燕535・574・蔵231
- 『近世崎人伝』(崎人伝) 玄15・197・201・250
- 『金石録全伝』 燕407・蔵231△(金石全伝)
- 『禁秘鈔』 玄70
- 『金平千人きり』 燕426・蔵231
- 『金平草紙』 燕572
- 『金瓶梅』 京462・玄177
- 『金葉和歌集』(金葉集) 燕330・571
- 『權阿含経』 燕278
- 『愚管抄』 燕361・570・京473・481・484・玄14・172・185・220

- 『公卿補任』(補任) 燕526\*・京514・玄14・129・185・188
- 『草むすび』(久左牟須備/草牟春備) 燕416・玄15・223・蔵218
- 『公事根源』(公事根元) 燕352・570
- 『旧事本紀』(先代旧事本紀/旧事記/大成経) 燕450・570・京484・玄235
- 『供舍論頌』 燕344
- 『区種法』 玄65
- 『虞書』 玄211
- 『孔叢子』 燕564・京461・491
- 『雲妙間雨夜月』(拙著の小説) 玄31
- 『群書類従目録』 燕555\*・京515
- 『群芳譜』 燕418\*
- 『桂海虞衡志』 燕516\*・京513
- 『刑志』(※蒲生秀実) 玄138
- 『鯨志』 燕388
- 『傾城龜將軍』(傾城竈照君) 蓑347・蔵220
- 『鶏跖集』 玄66
- 『慶長記』 玄59
- 『慶長年間江戸図考』(慶長江戸図考) 玄12・59
- 『景德伝燈録』 ↓『伝燈録』
- 『桂林漫録』 京474・玄15・254・蔵221△(恵林漫録 ※抹消)

- 『華嚴経』 燕482
- 『結吒録』 燕281・532・534・572・京474
- 『月清集』 燕323\*・京507
- 『月令正義考靈耀』(考靈耀) 玄26
- 『牽牛通』 玄13
- 『牽牛品』 玄13・91
- 『元亨釈書』 燕442・571・玄15・179・243・蔵221
- 『堅瓠統集』 燕444
- 『源氏物語』(源氏) 燕413・474・507・532・京484・玄12・67・262・蔵220△
- 『賢首梵網疏』 玄28
- 『玄中記』 燕440
- 『剣の巻』 燕345・玄263
- 『見聞集』(※『慶長見聞集』カ) 玄59
- 『建文帝年譜』 玄117
- 『源平盛衰記』(盛衰記) 蓑362・燕291・292・327・334・494・507・534\*・538・571・京464・483・515・玄11・31・61・63・164・218・219・222・223・226・229・235・248・249・蔵221
- 『兼名苑』(—注 ※『和名鈔』所引) 燕400・483
- 『子敦盛』(※絵巻) 燕475
- 『幸庵對話記』(對話記) 玄15・196・197・

『考異』(張翠微) 燕 404  
 『廣異記』 燕 435  
 『皇胤紹運錄』(本朝皇統紹運錄/紹運錄) 燕 315・334・570・京 439・玄 14・148・185・  
 藏 198  
 『廣雅』 燕 493  
 『廣貫』(※茂木翼) 京 512  
 『孝經私記』 燕 402  
 『孝經列伝』 燕 465・573・藏 223 △  
 『江家次第』 玄 14・160・171・235  
 『廣五行志』 玄 95  
 高谷が詩の序 燕 498  
 『攷古質疑』 京 491・玄 16・213  
 『好古日録』 燕 288 ↓ 290・388・572・京 506・玄 15・157・159・174  
 『孔子家語』(家語) 燕 357・449・535・542・562・572・玄 15・158・191・210・228・藏 222  
 △・225 △(※抹消)  
 『孝子の行状記』(孝行記) 京 495  
 『孝女花扇伝』 京 496  
 『広新聞』 燕 459 \*・京 513  
 『盞簪録』 玄 197  
 『考声切韻』 燕 296  
 『広西通志』 京 474・476  
 『侯鯖録』 京 421  
 『広荘』(※袁宏道。『秘笈』所収) 玄 16・

248  
 『高僧伝』(梁) 燕 462 ↓ 『宋』 『統』  
 『江談』 玄 11・68・244・245  
 『江亭記』 玄 74  
 『功程式』 燕 418  
 『黄帝宅経』 燕 350  
 『皇統授受図』 玄 11・42・藏 217  
 『江濃記』 玄 15・168  
 『洪範五行伝』 玄 21  
 『広百川学海』 燕 335・493  
 『甲陽軍鑑』(軍鑑) 燕 485・玄 15・161  
 『呉越春秋』 燕 536・573  
 『後蟹録』 燕 306・445・446 ↓ 『蟹録』  
 『後漢書』(後漢) 燕 293・404 \*・447・465・  
 燕 558 (※後修本のみ)・京 510・玄 13・44・51・68・78・94・104・112・118・121・131・132・145・172・174・252・259  
 古記(※佐渡は扶門) 京 428  
 『五行大義』 燕 535・玄 13・125  
 『五行問』 玄 14・125  
 『五経文字』(唐張参) 燕 404  
 『古今集』(古今和歌集) 燕 320・321・325・333・345・413・414・571・玄 11・77・88・  
 藏 223  
 『古今集』米雅注 玄 88  
 『古今六帖』(六帖) 燕 295・玄 12・76・97

『国牛十図』(※絵巻) 燕 474  
 『谷響集』 京 474・484  
 『国語』 京 463・玄 13・81・177・193・224・228  
 『国史補』 燕 533 \*・京 514  
 『国性命合戦』(国性命) 燕 393  
 『国性命大明丸』 養 374・藏 224  
 『国朝画徴録』(※清張庚) 玄 16・258  
 『五元集』 燕 327 ↓ 330・419・572・京 507  
 『古言梯』(魚彦いへり) 燕 303・藏 223  
 『古語拾遺』 玄 15・100・142  
 『古今談概』 京 474  
 『古今著聞集』(著聞集) 燕 279・294・320・349・349 \*・359 \*・360・397・570・京 508・  
 玄 15・173・201・225・245・藏 223 △  
 『古今類書纂要』(纂要) 燕 285・573・京 513・  
 藏 223 △  
 『五雑俎』(五雑俎) 燕 282・287・289・291・364・402・404 (唐蕭灵 ↓ 灵灵灵灵)  
 406・407・417・420・431・444・528・532・573・  
 京 508・509・玄 14・21・27・32・87・  
 89 ↓ 91・95・113・185・186・191・261・藏 223  
 『後三年合戦記』(※絵巻) 燕 474  
 古詩 燕 465  
 『古事記』 燕 299・305・316・409・448・449・457  
 \*・469・563・570・京 513・玄 11・18・20・  
 139・140・159・160・189

- 『古事談』(故事談/印本——) 燕324・470・472・554・570・京483・484・515・517・玄11・67・129・235・245・蔵223△
- 『五車拔錦』 燕574
- 『後拾遺集』 燕359\*・京508
- 『五十四君』 燕501
- 『後水滸伝』(天華翁が作) 玄260
- 『後撰夷曲集』 燕332・572
- 『後撰集』 燕359・420\*・京511
- 『後太平記』 燕424
- 『吳地記』 玄190
- 『滑稽伝』(歴代——) 燕527・572・蔵210
- 『湖亭涉筆』 燕572
- 『犢牛』 玄13・92・蔵192△・223
- 『後鳥羽院御集』 玄34
- 『諺草』 燕417
- 『古文品外録』 玄33
- 『小町草紙』(※絵巻) 燕475
- 『小世継物語』 燕348・570・玄12・130
- 『戸令』 燕287・玄66 ↓令
- 『五老図詩』 玄202
- 『金剛起馬』(唐山絵双六) 京477
- 『金光明経』 玄168
- 『今昔物語』(古本——集/今昔(いまはむかし)物語) 燕349・349\*・359\*・415・417・444・460・570・京508・玄15・173・178
- 『金毘羅天童子経』 京470

- 『金毘羅靈驗記』 京470
- 『昆陽漫録』(混陽漫録) 蓑306
- 《古》
- 『西鶴置土産』 燕500
- 『西鶴織留』 燕500
- 『西鶴名残友』(名残友) 燕500・503・572・蔵228
- 『西鶴彼岸桜』(彼岸桜) 燕500・502・503・572
- 『西行物語』 燕559・570
- 『細々要記』 燕362・363・571・玄42・蔵227△
- 『濟世全書』 玄88
- 『催馬楽』(神楽——歌) 燕296・570・玄11・81・82
- 『西遊記』(橘南溪) 燕289・玄182
- 『西遊記』(西遊) 玄253・260・261・蔵227
- 『坐主経』 燕505
- 『雜記』(契沖——/契沖師説) 燕277・299・571・蔵227(※)雜記 写本一冊。ただし別書力)
- 『雜思詩』 燕310
- 『雜説』 玄234
- 『雜和集』 蓑326・蔵227△
- 『佐渡事略』(一書/ある物 ※書名明記せず) 京428・429・431・443・449・蔵227
- 『佐渡風土後記』(※)『佐渡風土記』力)

- 京441
- 『蓑笠雨談』(雨談) 燕388・445・京517・玄58
- 『猴蟹合戦』 燕436・438・475
- 『多門(さわと)筆記』 燕485
- 『山海名産図会』 燕516・京448・玄13・46・蔵227
- 『山家集』 燕571・玄12・43・蔵228(西行法師——)
- 『算経』(※謝察微) 玄64
- 『参考太平記』(参考) 玄11・61・259・263
- 『参考平治物語』(平治物語の参考/参考) 玄11・62・166・276
- 『参考保元物語』 燕571・玄11・蔵229
- 『三国悪狐伝』(三国妖婦伝/悪狐伝) 玄175・176
- 『三国演義』(演義三国志) 燕287・玄16・253・260・261
- 『三国演義』 京本(演義全像三国志評林) 燕287・288・574・玄259・蔵227△
- 『三国演義』 聖歎本(聖歎本演義三国志 ※毛宗崗本) 燕287・289・574・蔵227
- 『三国演義』 万曆版(万曆版演義三国志) 燕287・574
- 『三国演義』 毛宗崗評(毛宗崗が三国演義の評論) 玄261
- 『三国志』(陳寿が志) 蓑318・燕538・玄13・

- 『三六曆紀』 玄18
- 『三才図会』 京512
- 『三重韻』 玄250・蔵227
- 『山州名迹志』(山城名跡志) 燕289・327・572・玄15・161・235・蔵219
- 『三十六人歌仙伝』 燕570・蔵257 (※群書類 従)
- 『三十六番歌合』(※絵巻) 燕474・571
- 『三正俗解』(※中根彦圭) 燕280・282・572
- 『三代実録』(実録) 燕303・316・317・415・533・570・京435・484・487・488・玄11・22・24・146・148・150・158・160・163・174・244・264
- 『三体詩六卷抄』 燕534
- 『三夢記』 京456
- 『纂要』(※和名鈔) 所引 玄103
- 『山陵志』(※秀夷) 京439・玄114・138
- 《》
- 『詩』(詩経/毛詩) 燕344・京462・玄13・44・145・219・238・281・蔵222 (五経標注)
- 『字彙』 京443・玄13・64・132
- 『字苑』 玄66
- 『塩尻』 燕277・340・358・571・玄4・12・82
- 『爾雅』 蓑307・燕271・283・388・398・572・京506・玄20・26・35・37・69・100・162・

- 『爾雅集註』 玄181・238・281
- 『爾雅注疏』 玄105
- 『爾雅翼』 玄130
- 『志怪録』 燕447 (\*1)
- 『詞花集』 玄12・88
- 『支干考』(蘭林——) 燕537
- 『史記』(史) 燕339・404・444・464・494・496・557・573・京472・玄13・21・24・94・121・126・177・190・224・225・235・236・蔵234△
- (史記評林)
- 『史記索隱』(索隱) 玄21・126・225・235
- 『史記正義』(正義) 燕464・玄21・24・115・235
- 『私記』(※日本書紀私記)カ) 京470
- 『四季草』 玄15・248 ↓『秋草』
- 『色道大鑑』(好色大鑑/大鑑) 蓑334・335・340・347・370・燕501
- 『詩経集伝』(朱注) 玄238
- 『思玄賦』(※張衡) 玄124
- 『尸子』 燕306
- 『四子講徳論』(※王褒) 燕301
- 『資治通鑑綱目』(通鑑綱目/朱子綱目) 玄4・13・121・243
- 字書 燕283・332・401・408・432・541・561
- 『耳食録』 京452・453
- 『四書蒙引』 燕417

- 『四声字苑』 燕406・419
- 『事迹合考』 蓑362
- 『地藏経』 京473・玄168
- 『氏族博考』 玄16・135
- 『四大師の絵』(本邦—— ※絵巻) 燕474
- 『舌切雀』 燕439
- 『七修類稿』 燕526・535・553・563・573
- 『七人比丘尼』(※絵巻) 燕475・蔵235(—— 物語)
- 『七福神考』 京464・466・467・469・470
- 『実語教』 燕505・507
- 『悉曇愚鈔』 玄243・蔵236△
- 『信濃地名考』 玄12・34・35・38・蔵234△
- 『司馬法』 燕278
- 『詩品』 燕345
- 『事物異名』 燕404・573・蔵237△
- 『事物紀原』 燕277・285・329・573・玄14・66・90・135・蔵234△
- 『時文摘紙』 京471・蔵234
- 『事文類聚』(事文) 燕282・284・295・306・526・573・玄14・18・89・190・234・243・蔵234
- 『島わたり』(※絵巻) 燕475
- 『釈氏要覽』 玄14・44
- 『釈日本紀』 燕554・玄106
- 『釈名』 燕406・553・玄103・133
- 『釈薬性』 玄88

『謝康樂集』 玄90  
 『沙石集』 燕544・\*・烹482・515・蔵234 (※欄上重出)  
 『拾遺和歌集』 (拾遺集) 燕327・350・571  
 『集韻』 玄53  
 『拾芥抄』 (拾芥) 燕284・312・348・360・402・449・483・537・570・玄12・26・55・66・67・136・145・146・蔵237△  
 『十九史略』 玄13・50  
 『拾玉集』 烹464・玄12・83  
 『周書』 玄224・231  
 『十二類歌合』 (※絵巻) 燕474・蔵262 (※群書類従)  
 『十二老詩』 玄202  
 『十八史略』 玄13・21  
 『從亡諸臣祭文』 玄116  
 『從亡忠賢列伝』 玄116  
 『菽園雜記』 燕441  
 『述異記』 燕441・445・446・448・459・461・473・573・玄16・181・蔵234  
 『十訓抄』 (古本——) 燕279・321・323・323・\*・325・350・359・366・570・烹507・509・玄11・63・129・225・235・蔵237△  
 『酒頭童子絵巻』 玄15  
 『朱翼』 燕285  
 『周礼』 燕533・\*・烹514・玄13・26・29・65・

80・248・249  
 『俊寛』 (※『百番語』のうち) 玄15  
 『荀子』 玄13・30・52・210・211  
 『春秋』 燕477・537・538・561・玄23・35・蔵222 (五経標注)  
 『春秋運斗枢』 燕535  
 『春秋公羊伝』 (公羊伝) 玄64  
 『春秋左氏伝』 (左氏伝/左伝) 燕561・573・烹506・玄13・22・23・35・64・65・104・145・170・190・191・224・228  
 『春秋少陽篇』 燕563  
 『春秋伝』 玄65  
 『春秋内事』 燕277  
 『春曙鈔』 ↓『枕草子——』  
 『俊成家集』 燕559  
 『邊生八牋』 玄88  
 『句殿実々記』 (ある物/拙著小説) 燕400・467・玄182  
 『春風堂随筆』 (※陸深) 燕573  
 『書』 烹489・玄13・30・81・145・219・225・249・蔵222 (五経標注)  
 『傷寒論』 (宋版——) 燕353・574・玄82・蔵236  
 『承久記』 燕571・蔵236△  
 『將軍譜』 玄15・232・蔵237△  
 『匠材集』 玄12・46  
 『常山樓筆余』 玄15・186

『正治二年百首』 玄34  
 『紹述文集』 玄12・34・36・37  
 『尚書』 玄19  
 『尚書故実』 (尚書古実) 烹474・玄89  
 小説 (※『なるべし』カ) 燕401  
 『松染情史秋七草』 (ある物) 燕568  
 『聖德太子伝暦』 (太子伝暦/伝暦) 燕524・570・玄14・224・243・蔵237△  
 『承平官符』 燕391  
 『蔣飭切韻』 (※『和名鈔』所引) 燕398  
 『鐘鳴録』 燕531  
 『性靈集』 燕327・505・571  
 『性靈集便蒙』 (運敵註) 燕327  
 『書影』 玄255  
 『初学記』 燕533・\*・烹514  
 『諸葛孔明異伝』 烹517  
 『諸葛忠武侯伝』 (※張栻) 烹517・玄13・121  
 『職員令』 玄144 ↓『令』  
 『蜀王本紀』 (※楊雄) 玄124  
 『職官志』 (※秀実) 玄137・138  
 『食経』 (※崔禹錫) 燕406  
 『職原抄』 燕570・蔵257 (※群書類従)  
 『統後撰集』 燕399  
 『蜀志』 燕289・404  
 『蜀都賦』 (※楊雄) 烹508・玄240  
 『統日本紀』 (統紀) 燕353・469・539・570・

玄11・18・19・22・23・67・84・92  
 107・109・111・114・125・129・133・141・143  
 145・149・164・167・169・192・193  
 『続日本後紀』(統後紀) 燕570・玄11・24  
 66・67・144・150・153・155・158・159  
 162・164・169・170・192・245  
 『職人歌合の絵詞』 燕304  
 『職人絵尽』 京505  
 『食物本草』 燕418\*  
 『諸芸太平記』 燕500・572・蔵236  
 『諸家大系図』(大系図/諸家系図) 燕571  
 烹517・玄11・54・83・148・202・219・265  
 277・蔵203△・204△(\*3)  
 『書言故事』(書言古事) 燕333・407・459  
 573・蔵236△  
 『書言字考』 玄15・173  
 『諸国名義考』(※馬琴未見) 京426  
 『諸国里人談』(里人談) 玄12・24  
 『書蕉』(※陳繼儒)『秘笈』所収) 燕440  
 『女仙外史』(逸田叟小説) 玄14・40・117  
 『人海記』(※查慎行) 玄16・255  
 『神学類聚鈔』 京428  
 『神祇志』(※秀実) 玄138  
 『榊巷談苑』(葦洲翁隨筆) 燕279・292・293  
 315・358・406・417・571・蔵214(※「南畝叢書」所収)  
 『新古今集』 燕571・玄12

『新猿杓記』 燕296・572  
 『神社啓蒙』 京464  
 『神社考』 玄15・235  
 『新拾遺集』 燕398・玄12・55  
 『神咒志』 燕479・482・573  
 『晋書』 養341・燕354・445・京472・玄15  
 165・204  
 『新序』(※劉向) 玄13・27  
 『新撰姓氏録』(姓氏録) 燕539・540・571  
 玄11・76・80・139・143・145・148・151  
 159・179・186  
 『新撰万葉集』 燕409・414・553・571・蔵234△  
 『新撰六帖』 玄12・82・88・98  
 『仁宗帝勸学文』 燕573  
 『神代伝受記』 京464  
 『新著聞集』 燕318・572  
 『塵添瑤笈鈔』 玄170  
 『神皇正統記』 燕313・570・玄14・171・185  
 220・蔵235△  
 『神農本経』(神農経) 燕448・玄82  
 『神農本経解故』(※鈴木良知) 玄12・87  
 89・94  
 『深秘抄』 玄12・87・88  
 『新編東国記』 玄15・171  
 『人名考』 燕311・571・玄135  
 『新游北山記』 玄33  
 『新葉集』 玄12・43・54・55

『清律註』(※沈天易) 京511  
 『人倫訓蒙図彙』 燕397・431・490・491・572  
 『す』  
 『瑞応図』 燕465  
 『吹劍録』 燕282  
 『水滸後伝』 玄259  
 『水滸伝』 燕405・423・430・431・574・京462  
 512・玄177・251・255・258・261 ↓『忠義水滸伝』  
 『水滸伝』順治版(※七十回本。王望如序。総評) 玄16・251・255・259  
 『水滸伝』聖歎本(※七十回本) 京462  
 『水滸伝』百回本 京462・玄259  
 『水滸伝』雍正版(巾箱本。※七十回本。句曲外史序) 玄16・255・256  
 『水滸伝』李卓吾本(李卓吾本なる水滸伝 ※文簡本) 玄257・259・260  
 『水滸伝画像』郎瑛序(水滸伝画像/郎瑛が序したる画像 ※三十六人) 玄16  
 254・257・259  
 『水滸伝画像』陳洪綬画(水滸伝画像/陳洪綬が水滸の画像 ※百八人) 玄16  
 256・258  
 『隋史遺文』 燕574・蔵243  
 『隋書』 玄15・165  
 『隋朝海山記』 玄90

- 『隋朝種植法』 玄90
  - 『水東日記』(※葉盛) 燕421・\*・烹511
  - 『祐盛抄』 燕315
  - 『雀松原』(※絵巻) 燕456・474
  - 『頭陀物語』 蓑358・燕435・572・蔵190△・241  
(蕉門頭陀袋)
  - 『駿牛絵詞』(※絵巻) 燕474
  - 『駿台雑話』 玄12・117・225・227
- 《せ》
- 『西域伝』(※漢書「西域伝力」) 玄46
  - 『説苑』(※劉向) 烹504・玄16・21・138・191・252
  - 『西河旧事』 玄51
  - 『井空集』 玄12・45
  - 『星経』 玄21
  - 『西湖遊覧志』 玄16・254
  - 『聖財集』 烹484
  - 『静斎随筆』(静斎老人随筆) 燕310・331・501・572・玄12・68
  - 『曹瑣集』 玄90
  - 『姓氏解』(弁髦録) 燕539・玄15・135
  - 『正字通』 燕278・283・401・403・406・407・527・541・573・玄13・33・35・37・38・45・53・65・66・70・103・132・145・224・240・252・281・蔵234△
  - 『靖州凶経』 燕417・\*・烹510

- 『西廂記』(聖歎外書——) 蓑299・燕310・玄254・蔵241
- 『清浄平等覚経』 玄28
- 『政事要略』 玄262
- 『西清詩話』 燕536
- 『西征賦』(※「文選」所収) 燕297・\*
- 『氏族志』(※秀実) 玄138
- 『清波雜志』 燕282
- 『姓名解』(※宇野三平) 燕571
- 『姓名考』 燕539・571
- 『声類』 玄66
- 『説類』 燕509・528・573・玄181
- 『世間胸算用』 燕500
- 『世説』 燕404・蔵240△(世説新語補)
- 『雪斎記事』 玄15・250
- 『殺生石』(※「百番語」のうち) 玄15・176
- 『説聴』 玄129
- 『説郭』 玄265
- 『説文』 蓑307・燕388・402・403・404・\*・533・\*・烹506・510・514・玄13・20・37・38・64・66・70・145・281
- 『節用』 燕312
- 『撰陽群談』 玄15・217・蔵240△
- 『説略』 燕445
- 『折蘆達磨の賛』(※徐渭) 玄238
- 『善悪因果物語』 烹484
- 『山海経』 燕301・440・573・烹473・476・477・

- 玄13・33・37・51・174・175・177・181
  - 『潜確類書』(潜確居類書) 燕301・448・451・461・465・466・495・536・573・玄14・29・蔵241△
  - 『千家姓』 玄145
  - 『戦国策』 燕470・573
  - 『千載和歌集』(千載集) 燕473・571・烹468
  - 『撰集抄』 燕544・\*・570・烹515
  - 『占書』(※東方朔) 燕536
  - 『前々太平記』 玄261
  - 『闍提記』 玄250
  - 『前太平記』 燕349・玄261
  - 先達の記しおかれたる書 (※佐渡風俗) 烹450
  - 『錢唐記』 玄260
  - 『宣和遺事』 玄252・260
  - 『宣和集』(※「宣和集古印志」の誤) 燕288・烹506
  - 『宣和集古印史』 烹506
- 《そ》
- 『増一阿含経』 烹470
  - 『宗祇諸国物語』 烹484
  - 『蔵玉集』 玄82・83
  - 『僧祇律』 玄16・246 ↓「律」
  - 『蒼頡篇』 玄65
  - 『宋元通鑑』 燕434・玄13・71・111・113・174

- 『宋高僧伝』 玄16・241
- 『草根集』 玄207
- 『搜探異聞録』(※『裨海』所収) 玄14・20
- 『宋史』 玄15・185・186・188・191・225・226・252
- 『莊子』(莊周が言) 燕312・459・499・529・543・557・573・京457・467・495・506・玄13・26・30・65・127・202・211・213・蔵211・218(郭注——)
- 『宋詩紀事』 京512
- 『宋詩鈔』 京512
- 『宋書』(※沈約) 燕509・玄15・165・204
- 『搜神記』 燕296・334・458・483・573・京479・玄13・37・蔵212(搜神記同後記)
- 『搜神後記』 燕468・555・573・蔵212(搜神記同後記)
- 『相宅要説』 燕350・573
- 『雑談集』 蓑355・蔵228
- 『宋朝会要』 燕329
- 『増補越後名寄』 燕572・玄12
- 『増補江戸道中記』 燕521
- 『草木子』 燕573(※後印本のみ。初印本は『支干考』・京452・472・479・玄14・23・27・30)
- 『増山井』 蓑353・燕419・蔵194△・212
- 『莊論』(※阮籍) 燕303\*・京506・玄16・162

- 『統浦島(うらしまが)子伝』 燕554・555\*・京515
- 『統近世崎人伝』(統崎人伝) 燕318・玄15・250
- 『俗考』(※洪邁) 燕278・298・403・404・540・573
- 『統高僧伝』(唐——/唐高僧伝) 玄16・241・242
- 『統古事談』(統故事談) 燕297・324・570・京483・484・蔵212
- 『俗語藪』 京511
- 『統字彙補』 玄13・36・38・132・蔵211△(統字彙)
- 『統詞花集』 燕333
- 『俗事方』(※高濂) 燕480・482・573
- 『統神咒志』 燕482・573
- 『統水滸伝』(※『征四寇』) 玄253
- 『統斉諧記』 燕458・462・573
- 『統世説』 燕295・404
- 『俗説弁』 燕291・311・360・362・364・572・玄12・78・蔵211(※抹消)・212
- 『賊盜物志』 玄14 ↓『律』
- 『統博物志』 燕402・435・482・542・573
- 『統文献通考』 玄16・254・255
- 『統罔面談』(罔面統譚 ※羅文) 玄183・蔵248
- 蘇敬注(※『新修本草』) 玄88

- 『楚辞』 燕435
- 『楚辞後語』 玄16・238
- 『祖庭事苑』(事苑) 燕467・574・玄16・237・238・蔵211
- 『素問』(黄帝——) 燕407・574
- 『曾呂利咄』 燕318・572・京504・蔵211△(曾呂利物語)
- 『孫子』(——兵法) 燕499・573
- 《上》
- 『大阿弥陀経』 玄29
- 『大学』 京462・玄15・232・蔵234(四書集注)
- 『台記』 燕560・570
- 『大疑録』 玄212
- 『太玄経』(揚子——/大玄経) 燕278・280・531・573
- 『大荒経』 京513
- 『醍醐隨筆』(中川三柳子が隨筆) 燕473・480・492・498・571・京474
- 『大集経』 燕285
- 『大智度論』 玄16・212
- 『大東国郡分界図』 玄12・44・47・蔵210△
- 『大唐西域記』(西域記) 玄14・51・180・242
- 『大日経』 玄28
- 『大日経撰念誦隨行法』 玄29
- 『大日本史』(ある書/大國史) 燕554・玄



22 (\*4)

- 『太平記』 蓑 318・燕 282・314・336・344・368・392・417・418\*・424・449・474・494・533・668・534\*・541・543・544\*・571・烹 472・475・477・482・484・510・515・玄 11・58・63・68・73・128・259・263・蔵 209 ↓参考——』
- 『太平記演義』(演義) 玄 259・蔵 209  
 『太平記綱目』(綱目) 玄 259  
 『太平記大全』(大全) 玄 259  
 『太平記評判』(評判) 玄 259  
 『太平広記』 燕 483・573  
 『太平清和』(※「秘笈」所収) 玄 36  
 『大宝積経』 烹 470  
 『大明一統志』 燕 534・573・玄 14・33・51  
 『大明三藏聖経目録』 玄 14・29  
 『大論』 玄 242  
 『誰袖海』 燕 524\*・烹 514  
 『竹取物語』 燕 316・447・570・玄 15・180・261・蔵 210 △  
 『竹取物語』の注釈(※小山儀『竹取物語抄』カ) 燕 447  
 『玉篋』 燕 319・蔵 208  
 『玉加都麻』 玄 15・136・137・140  
 『為尹卿千首』 玄 12・83  
 『淡海志』 燕 540  
 『丹後風土記』 燕 554

『丹前艶男』 燕 501

《ち》

- 『竹書紀年』 玄 190  
 『筑前国統風土記』 玄 4  
 『致身録』 玄 116・117・222  
 『智度論』 玄 247  
 『智囊全集』 玄 16・232・233  
 『池北偶談』(※王士禎) 玄 14・90・99・117・129・170  
 『忠義水滸伝』 玄 260  
 『忠義水滸伝』李卓吾本(李卓吾が批点本 ※和刻本底本) 玄 260  
 『忠義水滸伝』和刻本(翻刻忠義水滸伝/水滸伝和版) 玄 16・260・蔵 242  
 『忠義水滸伝解』(水滸伝解) 玄 16・260・蔵 242  
 『忠義水滸伝抄訳』(鳥山氏が水滸伝解) 烹 462・玄 16・260・蔵 242 △  
 『中右記』 玄 14・146  
 『中庸』(聖人の言/子思) 燕 334 (賢者之言) 343 (孔子曰) 344・401・496・玄 13・26・211・蔵 234 (四書集注)  
 『中庸發揮』 玄 211  
 『長者機嫌袋』 蓑 353・蔵 200  
 『張敞集』 燕 441  
 『調度歌合』(※絵巻) 燕 474・蔵 262 (※群

書類従)

- 『智論』 燕 327  
 『珍書考』 燕 358

《こ》

- 『通志』 玄 135  
 『通志略』 玄 89  
 『通俗忠義水滸伝』 玄 16・255・256・260・蔵 213  
 『通俗武王軍談』(武王軍談) 玄 177・178  
 『通曆』 玄 135  
 『通鑑大全』(※「資治通鑑大全」カ) 烹 472  
 『築土考』(※馬琴。未執筆) 燕 379  
 『菟玖波集』 燕 308\*・烹 507  
 『筑波問答』 燕 527  
 『徒然草』 燕 348・393・402・475・570・玄 15・161・230・246・247・蔵 212・212(―注)  
 『徒然草鉄槌』(鉄槌) 燕 475  
 『徒然草野槌』(野槌) 燕 475  
 《こ》  
 『帝王五運歴年記』 玄 135  
 『帝王世紀』 燕 464  
 狄青伝(本伝 ※「宋史」とは一致せず) 玄 234  
 『輟耕録』(南村―) 燕 492・516・516\*・531・537・539・573・烹 513・玄 14・127・蔵

215・225

『徹書記物語』 燕 570・蔵 225

『出羽大沼浮島図』 玄 12

『天狗説』(※徂徠力) 烹 471

『天狗内裡』(※絵巻) 燕 475

『天狗賦』(※杜甫) 烹 473・477

『天狗弁』 烹 471

『天狗名義考』 烹 471・472・484

『填詞名解』 燕 526 \*・烹 514 (\* 5)

『天書』(浜成——) 燕 414

『天台妙文句』 烹 470

『伝燈録』(景德——) 玄 14・29・237・240・242

『天寶遺事』 燕 459・573・蔵 205 △(開元天寶遺事)

『天満宮古実』 玄 130

『天満宮託宣記』 玄 11・129・蔵 254 (※群書類従)

《と》

『唐韻』 燕 302・354・553

『東海談』 燕 397・572・玄 15・220・蔵 214 (※「南畝叢書」所収)

『東海道名所記』 燕 372・521・烹 514

『桃花源記』 燕 448・473

『桃花大歌』(※李至) 燕 449

『燈花占』 燕 407・573

『東岡舎遺稿』(東岡舎筆記) 玄 15・197

『唐国史補』 燕 573・玄 13・32・40・247・蔵 210

『東国太平記』 玄 15・171・172

『唐五代史演義』 燕 560・574

『東斎隨筆』 燕 570・蔵 200・262 (※群書類従)

『唐山演義の書』(※「武王軍談」力) 燕 300

『道史』 玄 113

『唐詩紀事』 玄 99

『唐書』 燕 404・烹 472・玄 145

『東城父老伝』 燕 284

『冬青行』(※楊玉潜) 燕 537

『唐統高僧伝』 玄 16

『洞微志』 玄 190

『唐梵千字文』(唐字千變聖語) 玄 16・243

『童蒙抄』 燕 472

『冬夜箋記』(※王崇簡) 燕 288・573

『東遊記』(※橘南溪) 烹 428・玄 13・46・47

『唐六典』 燕 278

『唐律』 玄 170

『唐柳河東集』(柳文) 玄 16・224

『常盤姫物語』(※絵巻) 燕 475

『独語』(※春台) 燕 332・571

『読史余論』 燕 361・366・571・玄 11・116・131・225・229・蔵 200

『独断』(※蔡邕) 燕 351・玄 137

『杜騙新書』(江湖歴覽——) 燕 421 \*・烹 511

『鳥合』(※絵巻) 燕 474

『とんだ靈宝』(番付) 燕 385・425

《な》

『内典』 燕 344・354

『長門本平家物語』 ↓『平家物語』長門本中臣の祓 烹 457

『中臣祝詞』 玄 106

『昵竹』(昵近竹/泥竹) 蓑 366・蔵 215

『七草草紙』(※絵巻) 燕 475

『七十一番歌合』(※絵巻) 燕 474・571

『難波雀』 燕 500

『難波鶴』 燕 500・572

『浪合記』(波合記) 蓑 319・燕 365・365 \*・399・571・烹 509

『なるべし』(南留幣志) 燕 278・279・299・309・311・397・408・430・571・玄 12・43・52・189・蔵 215 △

『南越志』 玄 252

『南史』(南北史) 燕 404・553・玄 68・243

『男色大鑑』 蓑 323・326・燕 397・500・蔵 215

『南朝記伝』 燕 366・571・玄 11・116

『南朝紹運図』 玄 43

『南朝紹運録』 玄 43

『南朝武臣伝』 玄 11・蔵 215 △(南朝公卿補)

任武臣伝)

『南島志』 燕571

『男女色競馬』(色競馬) 蓑335・340・353・

燕501・蔵215

《に》

『新字(にひじ)』 燕540

『日蟹伝』 燕444

『日知録』 燕312・317・431・574・玄16・168・

172

『二程全書』 玄235

『二人比丘尼』(※絵巻) 燕475

『日本逸史』 玄14・161

『日本永代蔵』 燕500

『日本紀』(日本書紀/紀) 燕277・279・292・

299・334・349・351・367\*・398・409・449・

452・456・468・470・472・492・516・533・537・

540・542・555・557・559・562・563・570・京

464・466・467・470・473・484・488・509・516・

玄11・17・18・20・22・23・31・32・

50・64・65・76・81・96・97・105・107・

136・137・139・141・145・147・151・163・169・

173・179・185・189・192・193・224・235・

280・283・蔵196

『日本紀寛宴和歌』(延喜六年—/天慶六

年—) 燕292・323・409・570・玄11・

17・蔵196

『日本紀私記』 玄76・132

『日本紀通証』 京464

『日本紀略』(紀略) 玄11・23・32・68・

70・88・131・161・169・186・202・263・264

『日本後紀』(後紀/残欠後紀/欠本—/

偽撰—) 燕307・415・470・472・536・

553・554・559・562・570・京515・玄11・66・

111・113・153・155・159・162・167

『日本三代実録』↓『三代実録』

『日本書紀』↓『日本紀』

『日本靈異記』(靈異記) 燕294\*・京506・

玄11・31・129・180

『京雜の記』 玄5・22・212

『仁王経』(仏説—/仏説仁王護国般若波

羅蜜経) 玄16・176・177

《ね》

『猫の草紙』(※絵巻) 燕475

『猫亦づくし』 燕437

『鼠の草紙』 燕473

『鼠の嫁入』 燕473・475

『根津大権現初御祭礼番附』 蓑327

『涅槃経』 玄14・28

『年山紀聞』 燕310・544\*・571・京515・蔵214

『年代記』 京466

『念仏三心要集』 玄15・235

《の》

『農業全書』 玄4・蔵217

『稗海』 玄21

『俳諧歳時記』 蓑322・燕332・432・433・蔵194

『俳諧論』(※雲裡) 燕330・572・蔵192

『梅城録』 玄11・129・蔵254(※群書類従)

『梅松論』 玄11・60・蔵195

『白猿伝』 玄265

『白氏遺文』 燕558

『白氏文集』(長慶集) 燕300・573・玄14・

89・245

白石先生の記されしもの(※『読史余論』

九) 燕365

『白椿譜』 玄92

『博物志』 燕271・573・玄15・252・253

『博聞録』 京473・474・477

『白楽天』(※『百番謡』所収) 玄15・244

『巴蜀異物志』 燕495

『鉢かつぎ』(鉢加通伎の草紙) 燕475(※

絵巻)・玄15・247

『八文筆記』 玄13・79・蔵191

『鉢の木』(※謡曲) 玄128

『花咲翁』 燕439

『花咲の翁』 燕475

- 『花咲松』 玄11・43・藏195△
  - 『羽倉家譜』 蓑353
  - 『春雨鈔』 玄12・45
  - 『万海節用集』 燕503
  - 『藩翰譜』(白石翁の撰る一書 ※書名明記せず) 玄60
  - 『般若心経秘鍵』(秘鍵) 玄28
- 《〇》
- 『秘苑要術』 燕481・572・藏239
  - 『東山殿年中行事』 玄248
  - 『秘笈』(※陳繼儒) 玄16・36・248
  - 『聾人參種植法』(聾人參種植法 ※松本元治) 玄12・93
  - 『非国語』 玄227
  - 『秘藏抄』 京438
  - 『筆談』(※沈存中) 燕406
  - 『一目玉鉞』 燕500
  - 『鄙物語雜文』 燕420\*
  - 『百川字海』 燕573 ↓『広—』
  - 『百椿譜』 玄13
  - 『百人一首』 燕322・藏238 (師説抄・像譜抄・散書・うひまなび)
  - 『百番謡』 玄15
  - 『百練抄』 燕495・560・570・京439
  - 『白虎通』 燕301・玄13・19・20・27・145・

- 『病因考』(※後藤衡陽) 燕355・572
  - 『病源論』 燕354・京508
  - 『苗字考』 燕539・571
  - 『広田社二十四番歌合』 京464
  - 『琵琶記』 玄255
  - 『寶退録』(※趙与時) 燕416\*・京510
- 《心》
- 『風雅集』 燕399
  - 『風俗通』 燕349・449・玄13・19・145・247
  - 『風流曲三味線』(曲三味線) 蓑353・365・366
  - 『服章志』(※秀実) 玄138
  - 『鷗鳥の賦』 燕495
  - 『福富の草紙』(※絵巻) 燕462・474
  - 『袋草紙』(袋草子) 燕360・570・京517・玄15・225
  - 『武家故事要略』 燕396
  - 『藤原系図』 燕540・藏221△
  - 『扶桑略記』 燕472・京472・玄11・67・129・178・179・192・193・264
  - 『仏藏経』 玄14・28
  - 『仏祖通載』 京472
  - 『繁舟松の碑銘』(※入江北海) 京424
  - 『捕亡合』 燕286 ↓『合』
  - 『夫木抄』(夫木集) 燕294・326・451・452・459・462・466・473・498・571・玄12・34・

- 45・77・81・88・藏221△
  - 『武林録』 京505
  - 『文安田楽能の記』 燕568
  - 『文獻通考』 玄13・78
  - 『文子』 京462
  - 『文正草紙』(※絵巻) 燕475・藏222
  - 『文中子』 京489・517
- 《ハ》
- 『平家物語』(平家/平語) 蓑362・燕312・477・494・537・571・京482・484・485・玄11・61・63・126・161・222・226・227
  - 『平家物語』長門本 燕505・571・玄11・61・62
  - 『兵志』(※秀実) 玄138
  - 『平治物語』 燕334・京485・玄166 ↓『参考—』
  - 『秉燭譚』 玄12・64・65・170
  - 『秉穂録』 燕306\*・京507
  - 『別録』 玄93
  - 『篇海掇要』 燕403
  - 『弁色立成』 燕308・553・玄152
  - 『弁名』(※草昭) 燕333
  - 『弁六度法』 燕309
- 《ホ》
- 宝永年間の道中記 京514

- 『法苑珠林』 燕285・574・京470
- 『卯花園漫録』 烹517
- 『坊記』 玄66
- 『保元物語』 燕451・烹475・477・484・485・玄80・263 ↓『参考』
- 『保建大記』 玄4
- 『宝積経』 玄242
- 『北条九代記』 烹485・蔵198
- 『北条時頼記』 玄128
- 『北条分限帳』 玄59
- 『封神演義』 玄16・177
- 『炮炙論』 玄78・79
- 『房総志料』 烹469・509
- 『房内経』 玄105
- 『宝物集』 燕505・蔵198△
- 『抱朴子』 燕271・419・464・536・573・玄13・96
- 『保暦間記』(問記) 燕571・玄15・220・221・265・266・276・277・蔵198△
- 『宝楼閣経』 燕447
- 『篋篋抄』 燕293・295・572
- 『北史』(南北史) 玄15・150・243
- 『墨子』 烹461・462・491・玄15・30・174・232
- 『穆天子伝』 玄16・181
- 『慕景集』 燕319・571
- 『法華経』(法花経/法華) 燕442・462・548・574・玄116・242・蔵218

- 『牡丹譜』(※李純) 玄89
- 『牡丹譜』(※歐陽修) 玄90
- 『牡丹論談』 玄13・90・92・蔵197
- 『法曹至要抄』 燕286・287・570・蔵257(※群書類従)
- 『堀河百首』 玄12・83・85
- 『堀河百首題狂歌集』 燕323・418・572
- 『母衣放』(※新井白石) 燕303
- 『本行経』 燕467
- 『梵語雑名』 燕420・烹510
- 『本事詩』 燕335
- 『本草音義』 燕406
- 『本草綱目』(本草/綱目/本綱/李時珍) 燕291・299・305・403・406・445・448・481・493・574・烹448・466・玄14・18・35・52・53・78・89・93・95・97・100・252・蔵198△
- 『本草綱目啓蒙』 烹448
- 『本草和名』 玄12・88・92・100
- 『本朝怪談故事』 烹484
- 『本朝三國志』 玄15・161
- 『本朝式』(※和名鈔)所引 燕304
- 『本朝食鑑』 玄12・53
- 『本朝遷史』 燕559・572・蔵198
- 『本朝無題詩』 玄12・84・89
- 『本朝蒙求』 燕315・蔵198
- 『本朝文粹』 燕279・570・玄12・131・166・202

- 『翻訳名義集』 燕309・420・574・烹471・510・玄14・28・241・242・蔵197
- 『ま』
- 『每日一首』 玄45
- 『枕草子』(枕草紙) 玄69・70・77・81・258
- 『枕草子春曙抄』(春曙抄) 玄12・69・70・77・259・蔵220
- 『匡衡家集』 燕359・烹508
- 『増鏡』 燕315・570・烹439・玄11・114・128・193・蔵220△
- 『松浦佐用媛石魂録』(囊にいへり/あるもの) 燕299
- 『万葉集』 蓑358・燕296・303・304・320・321・325・398・406・408・409・413・452・469・472・571・烹506・玄11・19・87・88・95・99・103・139・150・151・156・159・167・171・179・180・282・蔵220(万葉和歌集)
- 『万葉集略解』(万葉略解/略解) 玄11・88・96・97
- 『み』
- 『漂漣』(※遊女評判記) 蓑370
- 『水鏡』 燕292・294・294・295・296・352・472・570・烹506・玄11・128(三かゝみ)・129

185・188・蔵233△

『岷江入楚』 蓑354

『明史』 玄13・52・113・173

『民志』(※秀実) 玄138

『明史略』 玄117

《む》

『昔語質屋庫』 烹517

『昔八丈』 燕382

『昔々物語』 燕378・379・381・542・572・烹491・蔵216

『夢溪筆談』 燕509・573

『虫合』(※絵巻) 燕474

『武者物語』(※松田一楽) 玄12・63・蔵216△

『無長叟伝』 燕444

『陸奥話記』(陸奥(みちのく)話記) 燕367・368\*・571・蔵233

『無名抄』(俊頼朝臣) 燕350・570

『無門閑』(龍頭)——頭書 燕278・574・玄16・240・251・蔵216△

『紫一本』 燕572・烹423・424

『無量寿経』(仏説)—— 玄28・29

『室町殿物語』 蓑362・燕318・319・382・571・蔵216 (室町殿日記 ※欄上重出)

《め》

『名医別録』 玄100

『鳴皋歌』(※李白) 玄238

『名伝略記』 燕540

『名物六帖』(東涯先生) 燕430・431・571・烹466・蔵232 (※人品・器財)

《も》

『蒙求』 燕293・315・蔵239

『孟子』 燕334・339・359・388・425・572・烹461・462・486・489・玄13・28・30・64・222

『藻塩草』 烹464・470

『文字集略』 玄76

『物草太郎』(※絵巻) 燕475

『物見車』(俳諧)—— 燕500・572・玄13

『桃太郎』(——物語) 燕439・475

『文選』 燕297\*・烹506・玄14・52・104・131・173・174

『文徳実録』(文徳天皇実録) 蓑326・燕316

507・玄11・32・67・151・162・168・264

『家持家集』 燕421・571

『夜船閑話』 玄15・250

『大和本志』 燕540

『大和本草』 燕418\*・烹449・510・516・玄12・35・36・53・78・79・88・93・97・281

『大和名所鑑』(大和名所記) 燕368・369・373・375・377・378・521・523・524\*・572

『大和物語』 燕320・321・325・326・570・蔵219

『山の井』 燕418・572・蔵192△・219

《ゆ》

『維摩経』(維摩詰経) 玄14・28・164・166

『幽怪録』 燕447

『夕霧文章』 蓑370

『翰軒小録』 玄12・33・34・36

『遊仙窟』(遊仙窟記) 燕351・472・473・500

『幽冥録』 燕447

『酉陽雜俎』 燕301・452・482・573・烹457・玄13・33・90・97・蔵232

『陽関三疊図譜』 玄14・46

『容斎隨筆』(洪適が五筆) 玄4

『楊氏漢語抄』 燕304

『揚子法言』 玄15・212  
『雍州府志』 燕289・327・572・玄15・235・藏

207  
楊六郎(※『楊家將演義』等) 玄260

『吉野拾遺』 燕525・571・玄11・58・藏208  
『吉原丸鑑』(丸鑑) 燕504・572・藏208

『淀川』(淀河) ※『新增大筑波集』 燕323・

藏194△・207

『四人比丘尼』(※絵巻) 燕475

『四方硯』 京435

『諸買物調宝記』(万買物調宝記) 燕572・

藏208

《5》

『礼記』 燕572・京463・玄15・20・144・283・

藏222 (五経標注)

『雷震記』 玄13・33・36・38・藏215△

『桑善録』 燕402

羅山先生の記(※金比羅像の説) 京469

『風雪句集』(玄峰集) 蓑362・藏193△・215

△

《6》

『李花集』 玄12・53・55

『六韜』 玄189

『李子正弁』 京457

『律』 玄170

『琉球事略』 玄12・84

『琉球談』 玄12・54・藏201△

『劉公嘉話』 玄89

『留青集』 燕358

『令』(大宝令) 玄64・65・249

『令義解』(義解) 燕286・玄11・18・65・

66・144

『楞嚴経』 玄116

『梁史綱』 ↓『資治通鑑綱目』

『梁書』 玄13・95・165・191・203・204・243

『兩巴厄言』 蓑334・燕501

『呂氏春秋』 燕300・564・573・玄13・23・164・

173・203

『臨海異物志』 玄33

『林葉集』 玄12・83・85

《7》

『類経』 玄14・25

『類柑子』 燕330・431・572・玄13・44・藏203

『類聚国史』(類史) 燕307・354・536・京

515・玄11・23・66・144・152・153・157・

158・160・162・163・167・169・171・192

類書(※『蟹録』カ) 燕443

『類書纂要』 燕508・508\*・573・京513・藏203

《8》

『蠡海集』 燕527・573・京457・486・玄14・28・

40・159

『礼儀志』(※秀実) 玄138

『靈枢』 燕284

『列子』 燕497・京513・玄15・191・202・212

『列仙全伝』 燕462・573・玄16・181・藏211△

『列仙伝』(※劉向) 玄16・182・藏201・211

『連珠』(※劉伯温) 燕333・573

《9》

『老学庵筆記』 玄174

『嫗嫗記』(※伊世珍) 京474

『漏刻経』(梁——) 燕533\*・京514

『老子』(——道德経) 燕322・京462・463・

489・玄13・30・100・112・211・213・231

『老子歴蔵経』 玄29

『老人雑話』 燕421\*・京512・玄15・197・藏

191

『那邪代醉篇』 燕537・573

『六書故』 玄145

『六度経』 燕467

『論語』(語/孔子曰) 燕302・333・356(孔

子疾病) 357・368・530・572・京489・

玄13・17・18・29・129・212・231・藏234

(四書集注)

『論語疏』 燕459・563

『論衡』(王充が論) 燕273・285・330・339・

343・352・400・402・496・498・507・536・542・

573・烹478・玄13・37・78・80・125・蔵  
191

《わ》

『淮南鴻烈解』↓『淮南子』

『若草草紙』（※絵巻） 燕475

『和漢三才図会』 玄12・44・71・蔵204

『和漢名数』 燕409・烹510

『和訓栞』 玄12・35・36

『和訓類林』 玄12・137・173

『和字正濫要略』 燕571・蔵204

『和名鈔』（和名類聚鈔） 燕296・302・304

305・308・344・351・354・398・400・402・406

409・415・418・419・430・469・483・496・542

553・570・烹423・428・443・470・玄12・42

52・53・65・66・68・73・76・77

80・82・92・96・100・103・105・106

133・137・140・141・143・147・152・179

蔵204 238

注

\*1 『燕石』四四七頁の「異苑志、恠録」

は「異苑、志恠録」の誤。原本（巻四、

26丁表）に句読はない。両書とも小山

儀『竹取物語抄』所引。

\*2 『燕石』五四五頁において、馬琴は

『江田系譜（ケイツ）』に義貞贈官のこ  
とが記されている由を、「一友人」か  
ら教示されたとのみ記す。一方、『玄  
同』巻一下には、この「一友人」が蒲  
生秀実であることが明記されている  
（大成本五五頁）。『燕石』における臘  
化は、同書刊行の二年前に、秀実が  
『不恤緯』をめぐって幕閣から譴責を  
受けた一件と無縁ではあるまい。『玄  
雑』巻上にも秀実の『山陵志』が引用  
されるものの、その著者名は伏されて  
いる（大成本四三九頁）。

\*3 『大系図』（板本『尊卑分脈』）には  
十四巻本・三十巻本の二種があり、馬  
琴は両本とも所持していたが、『玄同  
放言』に明記された巻数から推すと、  
彼は多く十四巻本に依拠しているよう  
である。『俊寛僧都嶋物語』（文化五年  
十月、柏栄堂等刊）巻五でも、馬琴は  
「すべて三十巻の系図には錯悞（あや  
まり）多し」（十五丁表）と記し、十  
四巻本に信を置いている。

\*4 『燕石』五五四頁の「ある書」、『玄  
同』二二頁の「大國史」は、いずれも  
『大日本史』。『吾仏の記』百卅七「蔵  
書沽却の損益」によると、馬琴は『大  
日本史 欠本三十七冊』を所持してい

た。

\*5 『玄雑』初印本（巻下、46丁裏）は  
「堪詞（たんし）名解」に誤る。のち  
改刻。

（かんだ・まさゆき 法学部准教授）